

「第1回第2次千葉市学校適正配置検討委員会議事録」

1 日時 平成18年6月30日（金曜日）13時30分～15時30分

2 会場 千葉市教育委員会第2会議室

- 3 会次第
- (1) 開会
 - (2) 教育委員会挨拶
 - (3) 委員委嘱
 - (4) 委員長・副委員長の選出
 - (5) 諮問
 - (6) 審議
 - ①学校適正配置に係る本市の現状
 - ②第1次学校適正配置の取り組みの概要と課題
 - ③第2次学校適正配置検討委員会の進め方について
 - (7) 閉会

4 出席者

- ・委員
- 千葉大学教育学部長 明石要一 委員
千葉大学教育学部助教授 貞廣斎子 委員
千葉市PTA連絡協議会副会長 大和久清子 委員
千葉市青少年育成委員会会長 緑が丘中学校区青少年育成委員会会長 小川博子 委員
千葉市子ども会育成連絡会会長 田原洋子 委員
千葉市教育研究会事務局長 升川光博 委員
千葉市小学校長会副会長 市川百合子 委員
千葉市中学校長会副会長 鶴飼憲雄 委員
若葉区町内自治会連絡協議会会長 安達満夫 委員
花見川区花見川団地自治会会長 黒田實 委員
中央区町内自治会連絡協議会会長 佐藤勇吉 委員
緑区町内自治会連絡協議会会長 豊田洋祐 委員
稲毛区町内自治会連絡協議会会長 長井巧 委員
美浜区千葉幸町団地自治会会長 長岡正明 委員
- ・千葉市教育委員会
- 教育長 飯森幸弘
教育総務部長 大野湊
企画課長 山崎正義 他

5 検討委員会議事概要

- (1) 審議に先立ち、委員委嘱が行われた。
- (2) 委員の互選により、委員長に明石委員、副委員長に市川委員が選出された。
- (3) 審議の公開について決定された。
- (4) 飯森教育長から諮問が行われ、引き続き諮問理由の説明があった。(6 諮問と諮問理由 参照)
- (5) 事務局から学校適正配置に係る本市の現状と、第1次学校適正配置の取り組みの概要と課題について資料の説明があった。(7 資料の説明 参照)
- (6) 第2次学校適正配置検討委員会の進め方について、審議が行われた。(8 審議の概要 参照)

6 諮問と諮問理由

・諮問

第2次千葉市学校適正配置検討委員会委員長 様

千葉市学校適正配置検討委員会設置要綱第2条により、次に掲げる事項について検討の上、提言を頂きたく、別紙理由を添えて諮問いたします。

諮問事項

千葉市立小・中学校の学校適正配置の基本的考え方について

平成18年6月30日

千葉市教育委員会 教育長 飯森幸弘

・諮問理由

趣旨

本市においては、幕張新都心や緑区を中心とする大規模住宅開発などにより、市全体の児童生徒数は緩やかな増加傾向にありますが、少子化の影響を受け、昭和60年代以降、多くの学校で小規模化が進んでおります。

これまで本市では、第1次学校適正配置検討委員会でもとめられた学校適正配置の基本的考え方をもとに、学校の統合に取り組んできました。その結果、旧花見川第四小学校と旧花見川第五小学校の地域では、地元の主体的な取り組みにより、合意形成が図られ、本年4月に花島小学校が開校しました。

少子高齢化社会が急速に進行する中で、学校適正配置はこれから長期にわたり取り組まなくてはならない課題であり、新しい時代への総合的な教育環境整備の一環として、学校適正配置を今後さらに計画的に進めるため、新たな「学校適正配置の基本的考え方について」検討をお願いするものであります。

そこで、次の2点の検討事項等について、検討をお願いします。

検討事項

(1) 学校適正配置のあり方について

第1次学校適正配置検討委員会の基本的考え方を踏まえ、「子どもの教育環境」、「学校運営と指導体制」等の視点から「適正規模」及び「学校配置」について、検討をお願いいたします。

(2) 学校適正配置の取り組み方について

新たな学校適正配置のあり方を踏まえて、どのように、学校適正配置を進めていくべきか、条件整備を含め「取り組み方策」について、検討をお願いいたします。

7 資料の説明

・学校適正配置に係る本市の現状について、事務局から資料説明

・第1次学校適正配置の取り組みの概要と課題について、事務局から資料説明

・質疑応答

升川委員 他の政令市の取り組み状況はどうか。

企画課長 他の政令市も、学校適正配置に取り組んでいる。早い時期から取り組んでいる政令市もある。比較的、小規模校の状況が類似しているのは北九州市などである。

佐藤委員 義務教育の小中学校の用地は千葉市の所有であり、市民国民の貴重な財産であり、跡地は公的な活用をお願いしたい。

大規模開発された共同住宅地域において、児童生徒の減少から小規模校化が進んでいるが、10年20年後には世代交代があり、人口が復元するのではないか、推計したデータの提示が必要だ。

企画課長 先進の政令市の事例では、跡地利用については統合後に検討している。現在、旧花見川5小の跡地利用の検討を、全庁的検討組織を立ち上げて進めている。跡地の考え方については、本委員会の中でも御検討をお願いしたい。

本市全体では、平成12年から児童生徒数は微増している。地域ごとの人口復元等に関する人口推移分析は行っていない。

明石委員長 資料説明に関する質問をお願いする。

長岡委員 第1次の取り組みでは「中学校区は変更しない」という方針で進められた。他の政令市の取り組みでは中学校区についてどうであったか。

企画課長 政令市により、取り組み方は様々である。本市と同様の基準で統合を進めた事例も多いが、中学校の統合を進めた事例もある。

豊田委員 緑区は小規模校は少ない。一部の大規模校では、プレハブ校舎で授業をしている。子どもの現状を、子どもの視点で考え、大規模校への対応も検討してほしい。

明石委員長 第2次の適正配置のあり方を検討していく中で、大規模校についても考えていく。

8 審議の概要

<第2次学校適正配置検討委員会の進め方について>

・第2次学校適正配置検討委員会の進め方について、事務局から2つの検討事項について説明。

豊田委員 具体的にどの学校と、どの学校を統合するのかまで具体的な検討をするのか。

企画課長 学校適正配置の進め方の方向性を御検討いただく。

豊田委員 小規模校は必ずしも悪くない。よい面も沢山ある。地域によっては小規模校のままの方が子どもたちにメリットがある場合もある。同じく、大規模校についても、地域によっては学区の調整で切り刻むよりも、新設校を建設した方がよい場合がある。

明石委員長 検討委員会をどう進めていったらよいか、自由に述べて頂きたい。

佐藤委員 大規模開発の共同住宅地域にも、いずれは若い世代が住む。地域の人口推移をシビアに見て頂きたい。高層マンションが林立している地域もある。

明石委員長 千葉市に入ってくる人口より、出て行く人口が増加している。5年後の人口の動きについて、区ごとの推計が必要である。

企画課長 世代交代の事情など、人口推計には難しさがある。商業地域だったところに計画が変更されてマンションが建設されるなど新たな開発が始まる地域もある。

黒田委員 美浜区や花見川区の人口推計だけでなく、その区の中の各地域の人口動態を見ることが大事だ。地域は速いスピードで変化しており、それに対応して教育内容も含めて総合的に考えないと対応できない。

長岡委員 街の成り立ちを大事にして頂きたい。町内自治会と学区が一致しない地域がある。適正配置により町内自治会が分断されないような見直しをお願いしたい。

明石委員長 次回の検討委員会では、第2次5か年計画を資料として用意願いたい。

豊田委員 隣の区の学校へ通う子どもがいる。行政区と学区の一致について考える必要がある。

安達委員 小規模校は、大規模開発された地域に多い。今後も大規模開発はあるのか。

長井委員 一中二小の学区があるが、一方の小学校と中学校が小規模化している。小中一貫校とする考えはないのか。

長岡委員 統合は校名がなくなる等暗いイメージがある。小中一貫校など新しい発想が必要である。

明石委員長 新しい発想も大切である。本市では中高一貫校に取り組んでいる。

長井委員 古い団地は住居環境が悪く若い世代が来ない。

佐藤委員 市内小中学校のクラス数の現状を把握することが必要。

中央区の蘇我中学校の大規模化が進んでいるが、周辺の中学校は小規模化している。学区調整による学校規模の改善など、学区の再編制も検討していくべき。

明石委員長 本市が学区の自由化を検討しているか確認しておきたい。

企画課長 本市は、居住地に基づいた就学校の指定を原則としている。

安達委員 若葉区の若松台小学校、四街道市から児童が通っているが、四街道市の小学校に児童保育できたため四街道市へ戻ったと伺っている。

明石委員長 公立小学校を卒業して私立中学校へ行く児童の割合の変化と、私立中学校を受験した児童の割合の変化を調べるできないか。

鵜飼委員 小学校の児童は、学校に報告しないで私立中学校を受験している例も多い。どのくらいの割合が私立中学校を受験しているか、正式な統計や数値の公表はない。

企画課長 田原委員	市内にある私立中学校に何人の児童が通学しているかは把握している。 中学校へ行く機会がある。その時、小学校から人数が減ったなど感じるときがあるが、正確な人数は把握していない。
事務局 長岡委員	各委員から出た、資料作成の提案については、協議の最後に確認したい。 幸町四小の校庭は公団の用地のため、統合後の土地売却が心配される。統合して隣接中学校と小中一貫校になれば、地域子ども推進事業も1か所で展開できる。
升川委員	花島小学校の先生に聞き取りをした内容を紹介する。「統合するまでかなり負担がかかった」「特別な予算がなかった」「2校分より先生の人数が減った」「児童用のクラブのユニフォームがほしい」「古い校舎で子どもたちに惨めな思いをさせたくない」等があった。
黒田委員	校名の看板など委員会に作っていただいた。だが、運動会を参観したら優勝旗がなかった。もう少しきめ細かい援助がほしかった。
升川委員	同年度に美浜打瀬小学校が新築で開校した。子どもたちが花島小としての誇りが持てるようにしていただきたい。
明石委員長 鵜飼委員	花島小のケーススタディも必要である。 本委員会では学校適正配置のあり方を検討する。 児童生徒急増期には、小中学校が次々と新築され、学区と学校規模にアンバランスが生じてきた。
企画課長	基本原則として、本委員会では、規模だけの問題ではなく、適正とはどこまでを言うのかなど、大きくとらえて検討していくべきではないか。 学校の規模と配置の関係についてご指摘いただいた。本委員会には、諮問理由の中でも規模と配置という2つの面からご検討をお願いしている。 規模については、第1次の基本的考え方では、12学級から24学級をめやすとするとされているが、改めてご検討をお願いしたい。 配置については、義務教育諸学校施設費国庫負担法の中で、通学距離は小学校が概ね4km以内、中学校が概ね6kmとされている。
貞廣委員	本委員会の位置づけについてだが、統合対象校など特定の学校の数合わせにだけになってはいけないというご意見があった。 地域にはそれぞれ現状と課題があり、地域の中で話し合っていくべきこともあると考える。 本委員会では、市全体としてどう取り組んでいくか議論すべきである。学区の見直しを含め、大きな枠組みの中で、どのようなビジョンで本市の教育を発展させていくのか検討したい。 一般的に人口動態の予測は難しい、特に地域に限定したピンポイントの予測は難しい課題とされている。
佐藤委員	本委員会の議論の進め方としては大枠で了解した。本市のシビアな現状は知っておきたいので、小中学校の現状の資料を提供して頂きたい。 また、地域のコミュニティー即ち町内自治会の連協は中学校区で決まっていることを念頭において頂き、可能な限り学区は行政区と一致させて頂きたい。
豊田委員	本委員会では、具体的にどこどここの学校を統合するかの議論はしないことで確認した。 本市の子どもたちの状態を見ると、教育の現状には厳しいものがある。学校教育の重要性を感じる。学校・地域・家庭が一体となって取り組む必要がある。
田原委員 升川委員	花島小には統合してよかったことはないのか。 先生方には「問題点はないか」と聞いた。聞き方の問題もあった。子どもたちは落ち着いてきている。

- 黒田委員 運動会を参観したが、子どもたちの人数が増え、にぎやかで活気が出てきた。保護者も、PTA立ち上げのため協力して準備を進めている。子ども同士も打ち解けて仲良くしている。
- 企画課長 今後アンケートを実施し、子どもたちの声を聞きたい。
- 事務局 今後の審議に向けて、資料整理の要望があったので確認したい。
- ・ 5年後の児童生徒数の区ごとの推移
 - ・ 自治会区域と一致していない学区の例
 - ・ 行政区と一致していない学区の例
 - ・ 千葉市第2次5か年計画の概要
 - ・ 大規模な開発の計画
 - ・ 小中一貫校の事例
 - ・ 本市現在の全小中学校の学級数
 - ・ 大規模中学校の現状
 - ・ 学童保育のある小学校
 - ・ 公立小学校を卒業して私立中学校へ入学した児童数
 - ・ 花島小学校児童へのアンケート
- 事務局 主に11の資料要望があった。漏れ落ちや追加などあったらお願いしたい。
- 事務局 次回までどのような資料を用意するか、委員長と副委員長に諮りながら準備する。なお、ご専門で研究されている貞廣委員にご協力頂き、ワーキングを開催しながら資料の準備を進めたい。
- <委員長まとめ>
- 明石委員長 次回まで、「適正」をどうとらえたらいいのか、各委員に考えてきて頂きたい。まず、検討事項1の中の「適正規模」の考え方について審議を進めるが、本委員会では、市全体の大枠の中で基準を考えていきたい。
- 長岡委員 本日の審議の内容について、地元で話してよいか。
- 明石委員長 公開で行っているので問題はない。事務局でもホームページで公開する。今回は9月開催を予定している。以上で本日の審議を終了する。